

【けやき台中学校区】

あこがれや思いやりの気持ちを育む交流教室

1 はじめに

けやき台中学校区では、「夢に向かって自ら学び続ける、心豊かなたくましい児童生徒の育成」を目指して、小中合同あいさつ運動や小中連携による道徳授業の実践、乗り入れ授業等様々な活動「きらめきアクション」に取り組んでいる。特に、今年度は、児童生徒に中学生に対するあこがれや、小学生に対する思いやりの気持ちを育み、9年間のつながりを意識して学校生活を送れるようにするため、11月の1日部活動体験と1月の小中一日交流教室の二つの小中交流教室の充実に重点をおき、実践を行った。

2 実践

(1) 小学生部活動体験【11月13日(金)】

① 目的

- 部活動への理解を実際の体験を通して促し、中学生へのあこがれをもたせ、中学校進学への不安を軽減する。(小学生)
- 小学生と部活動を共に行うことによって、思いやりの気持ちを育む。(中学生)

② 主な内容

- 県民の日を利用し、全部活動による小学生の一日部活動体験を実施。
- 小学校保護者による部活動見学。
- スタディノートによる事前交流。
- 部活動体験後のアンケートによる交流。
- 小学校教員の部活動見学。

③ 成果と課題

- 一日体験入部の実践を通して、小学生の部活動への理解が深まり、中学校進学への不安を軽減する一助となった。
- 中学生と共に部活動を行うことにより、小学生が中学生や中学校生活に「あこがれ」の気持ちをもつことができた。
- 小学生と共に部活動を行うことにより、自分より年下の小学生に対する思いやりの気持ちを育むことができた。
- 高野小学校・松ヶ丘小学校とけやき台中学校は、学校間の距離があり、日常的に交流を図ることが難しいことが課題であった。今回、スタディノートによる部活動紹介や質問等の交流を図ったことが、日常的・継続的な交流活動への新たな施策となった。



【男子バスケットボール部】



【サッカー部】

(2) 小中一日交流教室【1月27日(水) 28日(木) 29日(金)】

① 目的

- 中学校という場において、学校生活を体験することをとおして、中学生の生活のリズムや雰囲気を感じとらせ、中学校生活に向けての不安を軽減し、中学進学に向けての意欲を育む。
- 中学生から学校生活の説明を聞いたり、中学生との話合いを行ったりするというふれあいをとおして、交流を深め、中学生や中学校生活にあこがれと期待を持つことができるようにする。
- 中学校教員による授業をとおして、小学校児童に学ぶ楽しさを味わわせ、中学校での学習に対する関心や意欲を高め、スムーズな接続が図れるようにする。
- 同じ学校区の小学生が座談会や昼食を合同で行うことによって児童同士の交流を図り、絆を深め、中学校生活を円滑に送ることができるようにする。

② 主な内容

- オリエンテーション 【小中交流, 小小交流】
- 中学校の授業参観, 施設見学 【小中交流, 小小交流】
- 小学校の教員による授業
- 中学校の教員による授業 【小中交流】
- 中学生による学校生活の紹介 【小中交流】
- 中学生との座談会 【小中交流, 小小交流】
- 昼食(お弁当) 【小小交流】
- 清掃活動

③ 成果と課題

- 中学生や中学校の教員との関わりをとおして、中学生や中校生活へのあこがれをもつことができた。
- 50分単位の時間での活動を体験したことで、中学校の生活への見通しがもてた。

校内を見学して中学生の先輩たちはすごい集中力で熱心に授業を受けていて、その姿を見て尊敬しました。また、2年生の先輩たちが中学校について優しく丁寧に教えてくれたので、中学校へ行くのが楽しみになりました。

【児童の感想】

思いや考えを伝え合うことができる生徒を育てる外国語教育 ～インタラクティブフォーラムの実践をとおして～

1 活動の概要とねらい（小中一貫教育の視点を意識した取組）

- (1) 今年度は、友達との対話を通して積極的にコミュニケーションを図ることを目的とし、6年生は、朝自習の時間を利用して英語による対話を行った。「話すこと」「聞くこと」に視点を置き、音声によるコミュニケーションを重視して活動を行うようにした。全員が英語でのコミュニケーションが図れるように、小グループに分かれ対話を行った。相手に話を合わせたり、通じない場合はなぜ通じないのか考えたり、グループで助け合いながら対応できるようにさせた。継続して取り組むことで英語に慣れ親しみ積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるられる展開を工夫した。実態に応じて年間計画を見直し、フォニックスの活動を段階的に行った。
- (2) 市内小中学校のALTをゲストティーチャーとして本校に招き、活動を行った。6年生は、中学校のALTと交流を図った。日本語を使わず英語のみの活動で積極的に会話を楽しむことができた。授業後は、給食掃除、休み時間と一緒に過ごし、自由に英語でのコミュニケーションを図る時間をもった。5年生は、各小学校のALTとクリスマス集会を行った。ALTとのインタビューゲームを通して、楽しくコミュニケーションを図ることができた。各校のALTの参加により、たくさん交流を図ることができた。
- (3) 1年生と6年生の英語での交流集会を行った。すべて英語で6年生が司会進行、ゲームの説明を行い、1年生と交流を図った。6年生は、挨拶、歌、ゲーム、コミュニケーション活動等を実際に英語で教える体験を通して、英語をより深く学ぶことができた。
- (4) 発展学習として、外国語活動で学習した英語表現をまとめ、学習プリントとして高学年に配布している。児童はそれを家庭学習や自主学習などに役立てている。6年生の3学期には、朝自習でフォニックスとグラマラーのプリントで読み書きの学習を行い、学習した英語を効果的に身に付け、中学校へのスムーズな接続ができるよう工夫している。
- (5) 中学校への一日交流教室の中で、英語の授業参観を行った。参観した児童は、中学校の英語の授業は、小学校と違いコミュニケーションばかりでなく書くことも重要になってくることを意識することができた。また、終えての感想の中には、「早く英語の授業を受けてみたい」「書くことは大丈夫だろうか」など、期待と不安をのぞかせていた。



2 夏季の中学校区部の研修（接続の「意識化」と「共有化」）

8/3に行われた中学校区の夏季研修を通して、接続のための「意識化」と「共有化」について研修を行い、以下のことについて確認した。

- (1) 接続の意識化
 - ・低学年児童：勉強しているという意識よりも活動して学ぶ。
 - ・繰り返し学習することによって、学んだことが定着しやすい。
 - ・ALTとの打合せの時間を確保して、学習内容について話し合う。
 - ・ゴールがインタラクティブフォーラムなら、6年生にはインタラクティブフォーラムの様子を映像で見せ、イメージをつかませておく。
 - ・英語による自己表現の充実を目指して、1文でもよいので感想や質問を話す。
- (2) 接続の共有化
 - ・高学年でのウォームアップになるなら歌を入れてもよい。
 - ・中学校区共通の英語版「学びの心得」を作成する。
”アイコンタクト・ジェスチャー・クリアボイス・スマイル”
 - ・ALTやHRTと児童の1対1のやりとりを入れる。
 - ・御所ヶ丘小6年の授業のように大きな声を出すことよい。



3 成果と課題

1年生から段階的・継続的に英語学習を行うことで、児童は無理なく自然に英語に慣れ親しみることができている。ALTと触れ合う機会が十分に確保されているため、英語への興味・関心が非常に高い。また、授業では、日本語を使わずに、ALTの英語の指示や説明をしっかりと聞き取り、内容を理解することができるようになってきている。6年生においては、外国語活動以外の時間に対話を意識した時間を確保することで、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを味わい、学校生活でも積極的に英語を発するようになった。相手意識をもち、注意深く聞いて相手の伝えたいことを理解したり、相手の反応を見ながらの考えを伝えようとしたりすることの意識化も感じられるようになった。今後の課題としては、実践的コミュニケーション能力を効果的に育成する場を積極的に設けることである。また、コミュニケーションモデルがスキルとして身に付いているかを把握し、中学校の外国語教育につなげられるよう指導計画の見直しを図っていくことである。

小中交流プロジェクト『部活動体験』に係るインターネット掲示板の活用

1 活動の概要とねらい

11月13日（金）いばらき県民の日を実施した、けやき台中学校での小学生部活動体験に向けて、インターネット掲示板を活用して小中学生の交流を計画、実施した。

- (1) けやき台中学校で各部活動の紹介や部活動体験での内容を紹介する画面をつくり、インターネット掲示板に掲載する。
- (2) 松ケ丘小、高野小の6年生児童が、その画面からどんな部活動があり、どのような活動をしているか、また体験日にはどんなことができるかなどを知るとともに、当日参加する期待感や疑問に思ったことを各部への返信として画面を作成、掲示する。
- (3) 中学校の各部活動で随時、掲示板を確認し、小学生の感想を読んだり、質問に答えたりする。

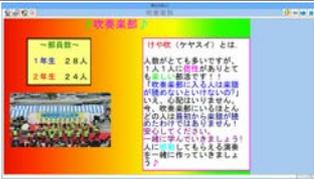
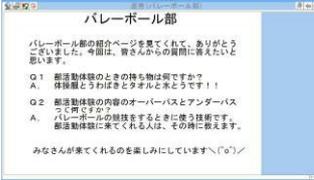
この活動を通して、小学生は、目的意識をもって部活動体験に臨むことができ、中学校へ進学する期待感を高めるとともに、不安感を軽減できるのではないかと考えた。

また、中学生にとっては、所属する部活動のアピールを十分行うことができる場にするとともに、下学年への思いや責任感を醸成する機会になると考えた。

さらに、この活動を一つの実績として、守谷市小中学校に配置された情報機器やインターネット環境を活用した小中交流の可能性を探ることを目的とした。

2 参加校 けやき台中学校、松ケ丘小学校、高野小学校

3 実践経過

月	活 動 内 容	
10月		<ul style="list-style-type: none"> けやき台中学校各部活動ごとに部活動体験時の活動計画、アピールポイント、部員募集等について、スタディノートで画面を作成した。それをインターネット掲示板「小中交流」に掲載した。
11月第1週		<ul style="list-style-type: none"> 掲示板の内容を松ケ丘小と高野小の6年生がそれぞれ閲覧し、見学希望の参考にした。また、閲覧した内容について、感想や質問などを書いて返信した。
11月第2週	 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動見学の前に、けやき台中各部からの返信を学級ごとや各自で閲覧し、当日の体験内容や準備物等の確認を行った。
11月13日		<p>【けやき台中学校部活動体験 実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生が自ら希望した部活動の練習に参加する体験活動を実施した。各小学校ともほぼ全員の児童が参加した。中学生との交流も十分深まり、意義のある活動となった。
11月第3週		<ul style="list-style-type: none"> 各小学校でお世話になった各部活動に対して、感謝の言葉や体験しての感想などの書き込みをした。

4 考察

本学区では、小中学校間が離れており、気軽に行き来することが難しい実態がある。そこで、インターネット掲示板を使うことで、時間と空間をあまり気にせずに、小中学生が意見交換をしたり、連絡を取り合ったりすることが実現できた。今後もICTを活用した小中学生の交流の可能性を広げていくことで、本学区の小中一貫教育を進めていきたいと考える。

豊かな心を育むための「小中連携道徳授業」の実践 ～思いやりの深化と質の向上を目指して～

1 はじめに

平成27年3月に一部改正された学習指導要領では、道徳の時間を「特別の教科である道徳」として新たに位置付けるとともに、発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、発達の段階に応じた「考える道徳」「議論する道徳」への転換、学習状況や道徳性に係る成長の様子を系統的に把握した評価の重要性が示されている。

上記の学習指導要領の内容を踏まえ、学力の向上のみならず、児童・生徒に豊かな心を育むためには、小中が連携し、生徒の発達段階に応じた道徳教育の在り方について研究を深め、協働して授業実践を行っていくことが重要であると考え、「けやき台中学校区道徳提案授業」に取り組むこととした。

2 実践

- ・小中学校同一資料「オトちゃんルール」による授業実践をとおして、「思いやり」の大切さを学ぶ。

けやき台中学校：	9月30日（水）
高野小学校：	10月6日（火）
松ヶ丘小学校：	10月20日（火）

- ・授業を通して学んだ「思いやり」についての自分の考えをハートカードに書き、「思いやり・ハートの木」のボードに張り、ボードが各校を巡り、児童・生徒がカードを読むことにより心の交流を図る。また、カードを読むことにより、中学生や他の小学生の考え方を知り、自分自身の「思いやり」についての考えの深化と質の向上を図る。
- ・小学校の授業「オトちゃんルール」へ中学校教員が参加することにより、小学生の実態や心の在り方を理解する一助とする。また、小学生の心の中に中学校とともに、授業を行っているという実感をもたせる。
- ・「オトちゃんルール」の授業実践を受け、中学校において「アフリカの少年」の授業を実施し「思いやりとは何か」をテーマに多面的に考え、思いやりの深化と質の向上を図る。

けやき台中学校：	11月30日（水）
----------	-----------

- ・授業実践に向けての小学校中学校職員合同の研修会や相互授業参観をとおして、小学校・中学校の各々の児童・生徒の心情面での発達の様子を確認するとともに、発達の段階に即した系統的な道徳教育の在り方を研修する。

3 成果と課題

- ・小中連携した道徳の授業の実践を通して、児童生徒の考える「思いやり」についての学びが深まり、「思いやり」についての考え方の質を高めることができた。
- ・道徳の授業実践に向けて小学校と中学校の教員が合同で検討を重ねることにより、発達段階を踏まえた体系的な道徳の授業の在り方について考えを深め、共通理解を図ることができた。
- ・小学校の教員と中学校の教員がTTを組んだ道徳授業の実践や、相互授業参観、研修会を行ったことが、道徳の授業の質の向上に繋がった。
- ・けやき台中学校区は、小中学校間が離れており、小学生と中学生が実際にかかわり合いながら活動することが難しい。今回の「思いやり・ハートの木」による心の交流のような文章による交流を行い、心の交流を図り、豊かな心の育成を図っていきたいと考える。
- ・小中学校間の教員の乗り入れ授業を行うことにより、発達段階を踏まえた体系的な道徳の授業の充実を図っていきたい。



【思いやり・ハートの木】



【アフリカの少年】

思いやりの心とは、相手がつらそうだから助けるとかではなく、たとえ今つらくても将来や未来に活かすことのできる経験をさせることなのだと思います。また、相手がどうしてほしいのかを考えながら行動することがお互いを尊重することだと思います。

【アフリカの少年・生徒の感想】